

# リニア活用基本構想(素案)の概要

## 策定の目的: 本県の将来の発展に向け、リニアを活用した県土づくりの基本的な指針

### 本県の優位性

- 豊かな自然環境・豊富な自然エネルギー資源
- 特色ある農産物や地場産業
- 高度な技術を有するものづくり産業
- 多彩な観光資源
- 安全・安心な社会・県土

### リニアの効果と影響

時間短縮効果: 東京・名古屋への時間距離の短縮  
国際空港へのアクセス向上

#### (プラスの効果)

- ・企業の立地や新たな産業の創出など産業の活性化
- ・Uターンや二地域居住の増加など定住の促進
- ・中京圏及び関西圏との交流拡大やインバウンド観光の進展など観光・交流の推進

#### (マイナスの影響)

- ・支店・営業所の撤退などによる県内経済への影響
- ・労働人口の県外流出
- ・宿泊観光客の減少

#### (将来像展望の視点)

- ・リニア効果を本県の発展に結びつける
- ・本県の優位性に磨きをかけ独自性を発揮する
- ・地域の特色を生かした魅力ある地域づくりに取り組む

### 本県の将来像(リニア開業後の本県の姿)

- 美しく魅力ある県土の形成
  - ・「安らぎ」や「癒し」を感じられる魅力あるまちづくり
- エネルギーの地産地消
  - ・太陽光発電などの利用、燃料電池技術・蓄電技術の研究や利用
- 新たなライフスタイルの展開
  - ・サテライトオフィス、環境保全型農業、二地域居住の推進
- 地域資源を生かした多様な観光の進展
  - ・おもてなしの定着、多様なツーリズムの展開、国際観光地の形成
- 首都圏の補完機能の向上
  - ・災害時の救援拠点、首都機能や企業の分散化、リフレッシュの場
- 新たな産業や機能の集積・発展
  - ・研究開発施設など高次機能の立地、地域ブランドの成長

## リニアを活用した県土づくり

### リニア新駅及び周辺の整備

#### リニア新駅の整備

- 本県の新たな玄関口として、美しい自然景観と調和した誰もが利用したくなる魅力的な施設

#### (地域振興につながる施設)

- ・観光などの県内情報を提供する観光案内・インフォメーション施設、特産品の展示・販売施設など
- ・レストラン、売店などの商業施設、ATMなどの金融サービス施設など

#### (独創的な施設)

- ・富士山・南アルプス・ハケ岳などの眺望を楽しむことができる展望施設

#### リニア新駅周辺の整備

- 他の交通機関への乗り換えなど、円滑な移動に必要な交通結節機能を中心とした整備

#### (交通結節機能の整備)

- ・バスターミナル、駅前広場、駐車場など
- ・レンタカー、カーシェアリングなどの新しい交通サービス

#### (アメニティ空間の整備)

- ・特産果樹を配置した公園など

#### (長期的発展を先導する戦略的な整備)

- ・先端産業の研究施設の立地など、本県の将来の発展を先導する地域としての整備を検討

### 県内各地を結ぶアクセスの強化

#### 交通アクセスの強化

- リニア新駅と県内各地をできる限り短時間で結ぶ交通基盤の整備

#### 1 リニア新駅と甲府駅周辺とのアクセス強化

- 公共交通のハブ的機能を有し、都市機能が集積する甲府駅周辺と新たな交通結節機能を持つ新駅を連携させ、相乗効果を発揮するよう両地域を結ぶ交通基盤の強化
  - ・荒川右岸を専用道として活用するBRTの整備
  - ・交通手段の技術革新の進展、交通需要の動向を把握する中で、ハイブリットLRTなどの導入の可能性を引き続き検討

#### 2 リニア新駅と県内各地とのアクセス強化

- (1) JR身延線へのアクセス強化
  - ・JR身延線最寄り駅の駅前広場や周辺道路の整備促進など、身延線と新駅を結ぶバス交通の促進
- (2) 道路交通によるアクセス強化

- できる限りの時間短縮とともに、都心と1時間程度で結べるよう、新駅と概ね30分で連絡可能なアクセス30分圏域の拡大
- 既存道路の有効活用、現行の道路整備方針などを踏まえた効率的・計画的な整備

- ①高規格道路の整備
  - ・中部横断自動車道、新山梨環状道路の整備推進など
- ②SIC等の整備による利便性の向上
  - ・富士吉田北SIC(仮称)、甲府中央SIC(仮称)の整備推進など
- ③高規格道路IC等と連絡し、県内各地域とを結ぶ幹線道路の整備
  - ・国道137号吉田河口湖バイパスの整備推進、新たな御坂トンネル構想の推進など
- ④新駅と近隣各地域とを結ぶ一般道路等の整備
  - ・新駅と国道358号を結ぶ道路、リニア中央新幹線の緩衝帯を利用した道路など
- ⑤新駅周辺地域の交通混雑緩和のための道路整備

#### 3 リニア新駅開業を見据えたバスネットワークの再編

- 主要な都市や鉄道駅へのバス運行など、関係者とともに、県内バスネットワークの再編を検討

### リニアを生かした活性化施策

#### 産業等の活性化

- やまなしブランドの推進
  - ・国内外への販路拡大や情報発信、ブランドツーリズムの推進
- ものづくり産業の海外展開等の推進
  - ・成長分野への進出支援、ジェット山梨との連携した海外展開の推進
- 成長分野産業の集積推進
  - ・将来性のある企業の誘致、高等教育機関等と連携した人材の育成
- 知の拠点づくり
  - ・海外研究者等が集うMICEの誘致・開催、産学官が連携した新たな産業の育成支援

#### 定住の促進

- 美しく魅力ある県土づくり
  - ・都市の緑化や景観に配慮したまちなみの整備
- 新たなライフスタイルに対応した住環境の整備
  - ・二地域居住など大都市圏との滞在型交流の推進、受入サポート体制の構築
- 将来を担う人材育成のための教育の推進
  - ・少人数学級の推進、確かな学力の向上や豊かな心の育成

#### 観光・交流の推進

- 誘客促進の強化
  - ・中京・関西圏をターゲットとした情報発信
- おもてなしの推進と地域資源の活用
  - ・県民総参加による山梨ならではのおもてなしの推進、着地型観光や山岳観光の推進、多様なツーリズムの推進
- インバウンド観光の推進
  - ・観光プロモーションの海外展開やICTを活用した情報発信、富士北麓地域の国際観光地づくり
- 都市農村交流の促進
  - ・農山村資源等を活用した都市と農村の交流の促進

(基本構想の推進) 1. 県民一人ひとりの知恵と力を結集した県土づくりの推進 2. 適時的確な情報の提供と地域との連携 3. 社会経済情勢に応じた構想の見直し